

エクステンジプログラム報告書

1. 招へい者（派遣者）の氏名と滞在期間、滞在先を全員分書いてください

派遣者：谷川享行、11/12 – 12/27, 国立中央大学（台湾中壢市）

2. 受け入れ担当者の氏名と所属

Ip Wing-Huen, 国立中央大学天文研究所

3. 招へい（派遣）の目的を2–3行で

今年、CPS と覚書を交わした台湾国立中央大学天文研究所(IANCU)に滞在し、研究所内のセミナーなど普段の活動にも参加させてもらうことで、IANCU 内の活動状況を把握し、今後の連携のきっかけを見つけることを目的とした。また、12/8 – 9 に行われた NCU-CPS Japan-Taiwan Planetary Science Workshop 2009 の準備も行った。

4. 成果報告（用紙が不足の場合は足してください）

アジア地区は、今後の発展の余地が大いにあり、かつ地理的・文化的な観点からも日本から交流を行う上での障壁が低い。そのため CPS は、連携ネットワークを構築していく上でアジア地区を重要と考えている。そのアジア地区の最初の連携先として、既に CPS と覚書を交わしている国立中央大学（台湾、中壢市）の天文研究所（以下 IANCU）へ、谷川享行（CPS/北大低温研）の派遣を行った。

より具体的には、IANCU の Ip Wing-Huen 教授は、惑星形成理論へも研究対象を拡大したいと考えているものの、IANCU 内で実際に惑星形成に関する理論研究を行っている研究者がいない。そのため、惑星形成理論を専門とする被派遣者がしばらく滞在し、Ip 教授をはじめ、IANCU のスタッフ・学生と議論を行うことで、惑星形成理論分野における共同研究の可能性を探った。

被派遣者は、まず IANCU の人に惑星形成理論について広く知ってもらうため、惑星形成過程のレビューを行い、同時に自分の個別研究の発表を行った。また、研究所内で毎週行われる複数のセミナーへ積極的に参加し、短期間の研究会等では知ることのできないより詳細な個々の活動・研究の進行状況などを知ることができた。その過程で、被派遣者の専

門分野に近いテーマを研究している修士の学生に対して、基礎的な指導を直接行った。

また、被派遣者らにより企画・開催された **NCU-CPS Japan-Taiwan Planetary Science Workshop 2009 (2009/12/8-9, IANCU)**の準備にかかる業務を、現地で行うことによってよりスムーズに遂行することができた。当ワークショップは、IANCU と CPS の間の連携のきっかけを幅広く探るという点に置いて、本エクスチェンジプログラム単独で期待されるより具体的で深い連携・交流とは相補的な役割を果たした。

以上の被派遣者による活動によって、CPS が今後展開していく国際連携ネットワークのハブ機関としての基礎を十分に構築することができたと考えている。また、個人レベルの共同研究についても、修士の学生と議論を開始することができた。

加えて、台北市にある中央研究院天文及天文物理研究所(ASIAA)を 2009/12/21 に訪問し、自分の研究成果発表とともに、CPS の紹介を行った。同研究所は台湾内の天文分野で最大規模の研究機関であり、かつその規模を急速に拡大しつつある。また、惑星形成理論・電波望遠鏡による原始惑星系円盤観測の研究者も所属しており、今後、CPS との連携の可能性を探る対象研究機関の一つと考えられる。